

お名前 山本 篤
ご住所 度会郡南伊勢町
発生時にいた場所 五ヶ所町国民学校
当時の年齢 14 歳

思いつく順に
避難について。

1. すぐに行動する。井戸の水で確かめるのは無駄なことだ。物の壊れたこと等、話し合っている時間が長い。「そんなことは春の日永にして、はよ逃げない」と言ってもなかなか聞かないものだ。
2. 下じきになったりした人があったらどうします？今から考えてもしかたないが、まあそのとき考えよう。
3. 災害後の復興について。平和日本とか法治国とか言うけど、今はのんきでよい時代だと思ってしまう。六月の田植えまでには、とにかく津波でやぶれた堤防を復旧して、海水が田んぼに入らないようにして米を作ろうと労働力のないとき。働き手は兵隊さん、軍需工場へ行った残りの人が、力を合わせてなしとげた。私は子供だから詳しいことは知らないが「東北地方と宿田曾」の御は忘れるなど母に聞かされた。1 万～20 万円の個人寄付をしてくれた人もあったが、後日おくさんに聞いたが知らないと言っていた。寒い冬、海に入って根石を積むには長靴のない時代、アルコールの勢いで実行するため、いものドブロクを作った。もちろん許可をとるなどのんきなこととしてられない。ジュンササンが味見にくると聞いた。12 帖ほどの所にドブ瓶がならんでいた。